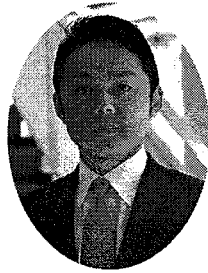


【抄 録】

「チェアサイド、ラボサイドにこれ」本！

新規接着性プライマーの臨床応用

近年の目覚ましい接着歯学の発展に伴い、“Minimal Intervention”コンセプトに基づく接着歯科治療は、臨床的有用性と経済的効率の観点から患者に大きな利益をもたらすものと期待されている。前装冠の前装部の破損・脱離、ラミネートベニアの破折、セラミック・ハイブリッドインレーの破折は日常で頻繁に遭遇し、接着技法の補修修復への応用は日常歯科臨床において高頻度歯科治療であると言っても過言ではない。また「う蝕処置された歯は最もカリエスリスクの高い歯である（田上、「う蝕学」、2008年）」と言われる通り、修復歯が二次う蝕に罹患することも少なくないが、そのような症例においても、旧修復物をすべて除去するのではなく可及的に補修修復を行うことが推奨されている（う蝕治療のガイドライン、2009年）。補修修復の臨床において、接着被着面には歯質だけでなくさまざまな歯科材料、つまり非貴金属系／貴金属系合金、各種セラミックス、コンポジットレジンが混在する。従来は被着面の種類の数だけ煩雑な前処理が必要であった。そこでこの度トクヤマ社が金属やポーセレン、コンポジットレジンはおろか、ジルコニア系、アルミナ系の補綴物に対し良好な接着修復を可能にするユニバーサルプライマーの開発を行った。臨床応用例を紹介しながらその臨床的有用性についてお伝えしたい。



【講師略歴】

保坂 啓一（ほさか けいいち）

2003年 3月 東京医科歯科大学歯学部卒業
2005年12月 米国ジョージア医科大学客員研究員（2006年11月まで）
2007年 3月 東京医科歯科大学医歯学総合研究科修了（歯学博士）
2007年 4月 東京医科歯科大学歯学部附属病院医員
2008年12月 東京医科歯科大学大学院う蝕制御学分野特任助教
2009年 3月 東京医科歯科大学大学院う蝕制御学分野助教
現在に至る

【所属学会】

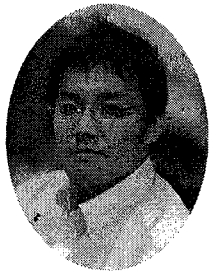
日本接着歯学会（接着歯科治療認定医、2012年優秀論文賞）、
日本歯科保存学会、日本歯科審美学会、日本歯科理工学会、
International Association for Dental Research

【抄 録】

「技工作業が変わる！

金属・セラミックス・レジン・ジルコニア 全てに接着するユニバーサルプライマー」

接着技術の進歩と新しい接着材料の開発に伴い、セラミックス、ジルコニア、硬質レジンなどの審美修復材料が広く臨床応用されている。また、金属床、インプラントなどにも従来用いられている非貴金属系合金、貴金属系合金やポーセレンに加え、ジルコニアやハイブリッド型硬質レジンなどの新しい材料を応用することで、歯科医師、患者のニーズに応えることが可能になってきた。これらの歯科技工作業では異なる組成の材料を接着することも多く、金属床を製作する際には、床用レジンと金属、硬質レジンと金属、人工歯と床用レジンとの接着材料が、また、クラウン・ブリッジを製作する際には、金属と硬質レジン、ジルコニアと硬質レジンとの接着材料が用いられている。ところが、非貴金属系合金、貴金属系合金、ジルコニア、硬質レジンにはそれぞれ専用のプライマーが必要であり、操作方法がテクニックセンシティブであるために、技工操作が煩雑になる原因の一つであった。今回は、これらの歯科技工材料表面を1つの接着材料で処理することが可能なプライマーが開発されたので、臨床での応用方法を紹介する。



【講師略歴】

池田 正臣（いけだ まさおみ）

1999年3月 東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校本科卒業
2002年3月 東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校実習科終了
2008年3月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
摂食機能保存学講座う蝕制御学分野博士号取得（歯学博士）
2008年4月 東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校採用 講師
2010年4月 東京医科歯科大学歯学部口腔保健工学専攻 講師
現在に至る

【所属学会】

日本歯科技工学会（2002年優秀論文賞、2011年優秀論文賞）
日本接着歯学会（2013論文賞）、日本歯科保存学会（2007デンツプライ賞）、
日本歯科理工学会（2009年、優秀論文賞）、日本歯科医学教育学会、
日本歯科CAD/CAM学会